

# 日本と中国における 金魚觀賞とその選評基準

## Goldfish Appreciation and Breeding Standards in Japan and China

野地恒有

はじめに

- ①日本金魚の選評基準
- ②『金魚養玩草』にみる選評基準
- ③中国金魚の選評基準

おわりに

### 【論文要旨】

本稿は、金魚觀賞における選評基準を題材とした動植物觀賞の文化の比較民俗学的研究である。選評基準とは、金魚觀賞において、金魚を選定・評価する基準のことである。本稿では、第1に、現代の日本金魚の選評基準として蘭鑄、土佐金、地金の3品種の金魚を取り上げることによってその選評基準と觀賞の志向をとらえ、第2に、18世紀の中頃に著された金魚飼育書『金魚養玩草』を用いて江戸時代の金魚の選評基準を検証し、第3に、中国金魚の選評基準との比較を行った。

その結果、日本金魚の選評基準は、1品種に完結した理想形として提示されており、その基準への嵌合という飼育形態がみられた。そして、その觀賞の志向は、一定の理想形への深化とまとめられた。『金魚養玩草』からも、ほぼ同様な金魚觀賞の志向を見出すことができたが、『金魚養玩草』には、1品種の枠を越えて新品種を評価する態度がみられ、現代における日本金魚と異なる觀賞の志向もとらえられた。中国金魚の選評基準は多品種を包括した実体に即した等級分類として提示されており、定形の基準外の品種作出という飼育形態がみられた。そして、その觀賞の志向は、多様性への拡大とまとめられた。

金魚の觀賞における選評基準は伝承文化を背景としている。金魚飼育とは選評基準に合致した金魚を作り出す技術のことであり、選評基準とは金魚の飼育技術と密接に関係している知識体系のことである。金魚の飼育をはじめ、花卉・草木や盆景・盆栽の栽培などは〈改造された自然〉を対象とする技術であるとともに、〈改造された自然〉の觀賞もある。それは、動植物觀賞の文化ということができる。〈改造された自然〉を觀賞する文化において、日本では定形へ深化し、中国では変形に拡大すると予想される。その志向の差は自然觀の質的な相違を表出するものである。